

令和4年度 第1回学校評議員会 記録

1 日時

令和4年7月6日（水） 9:30～12:00

2 場所

本校会議室

3 参加者

(1) 学校評議員 7名

A氏（学識経験者）

B氏（教育関係有識者）

C氏（企業関係者）

D氏（福祉関係者）

E氏（PTA関係者）

F氏（企業関係者）

G氏（地域関係者）

(2) 本校職員 8名

校長、副校長（小中、高）、事務長、総括教務主任、学部主事（小、中、高）

4 内容

(1) 学校評議員の委嘱（会議室）（9:30～9:40）

(2) 授業見学（9:40～10:00）

(3) 学校評議員会（10:00～12:00）

ア 開会のことば

イ 校長あいさつ

昨年度、1回開催したが、2回目は書面開催となった。その際にも、ご意見をいただきありがとうございました。今年度の新メンバーとして、福祉関係者のD氏をメンバーとしてお迎えしました。

本校は、開校4年目となり、3月には高等部から初めての卒業生が卒業していきました。今年度の新入生は36名で143名でのスタートとなりました。その他小学部1年生には医療的ケアが必要な児童が入学し、看護職員2名を採用しています。

コロナ禍が続いているが感染対策を取りながら、校外での学習活動を再開しており、来週は高等部の修学旅行が実施されます。

来年度、コミュニティ・スクール（以下、「CS」という。）学校運営協議会がスタートします。本日は、CSを学ぶ機会として、教育委員会学校教育室の指導主事をお招きして学習会を行います。地域に開かれた学校づくりの方向性を確認し、学校経営に生かしていきたい。本日はよろしくをお願いします。

○自己紹介

- ・全員出席 所属と氏名のみ

ウ 協議

(ア) 令和4年度学校経営計画について

学校概要について

開校4年目で、知的障害の生徒が通学している。全校143名、小学部62名、中学部38名、高等部43名で学級数は36学級となっている。現在は教室不足の状態となっている。

出身地をみると、盛岡市、矢巾町、紫波町となっていて、てしろもりの丘入所生は30名が在籍している。

通学バスは4ルート運行し、下校便は高等部のみ1ルート運行となっている。

(イ) 学校経営計画について

CSの令和5年度立ち上げに向けて、学校を挙げて取り組んでいる。自立を目指したキャリア教育に力を入れている。

地域の学校と交流及び共同学習には、地域との活動を通して関係を築いていきたい。

外部人材の活用について。今年度は「学校防災アドバイザー」の活用を考えている。

a 学部運営について

【小学部】

入口の学部である。教育課程の特徴は「遊び」。今年度は11名の新入生を迎え63名となった。その内、医療的ケアが必要な児童が1名入学した。毎年人数が増加している。コロナ禍においては、行事を工夫して実施している。新入生を迎える会は、対面ではなく、「ニコニコパレード」として交流することができた。校外学習でも工夫しながら実施しており、学校近隣の学習もたくさん実施しており皆が楽しみしている学習の一つである。今の季節は、中庭にプールを置いて水遊びを楽しんでいる。「楽しく学ぶ」中から学部目標の達成を目指している。

【中学部】

11名の新入生を迎えた。教育課程の特徴として「体育」を4時間設定していること、「生活単元学習」「作業学習」が中心である。過日行われた、前期校内実習を通して働く力などを養い将来につなげていきたいと考えている。

【高等部】

小学部が入口の学部であるとする、高等部は出口の学部である。「本気で取り組む」「働く力をつける」ことを目指している。令和3年度は、地域の公民館清掃に取り組んだ。今年度は、学年ごとに地域の清掃活動を行う。3年生は4月に道路の清掃を行っている。また、さんさ太鼓の取組を始め、太鼓をお借りした。その際には新山地区自治会長さんからビデオメッセージをいただいた。今後は地域の方々と一緒に清掃活動を実施していきたい。高等部は作業の時間が多い。

高等部の生徒は、本校中学部からの進学と外の中学校からの生徒が半々である。多様な生徒の集まりであることから、互いに認め合う姿を目指している。3年生は、進路への意識が高まっている。

(ウ) 開かれた学校づくりについて

a 令和4年度学校評議員会開催計画について

- ・2回目の学校評議員会は2月だが日にちは未定である。
- ・候補日は、2/3(金)、2/6(月)、2/7(火)、2/10(金)である。

b 令和4年度学校評価実施計画価について

対象者および推進日程説明

- c 令和4年度学校へ行こう週間について
 - ・地域の方々は、ひがしの日でご案内する。
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて計画する
 - ・令和2年度は180名の来校実績があり、令和3年度は中止となった。
- (エ) 令和4年度いじめアンケート実施計画等について
 - ・定義について説明。認知件数は上がるが、その訴えに対応することを目指している。
 - ・重大事態についての説明
 - ・調査用紙について小中高共に内容は共通である。調査用紙の自由記述は、実態に応じ聞き取り等の対応をする。
- (オ) その他
 - a 高等部の進路希望状況について
 - ・一般就労は2名、就労移行支援は4名、就労継続支援B型8名、自立訓練2名、生活介護1名の内訳である。就労移行支援を利用している4名は、入学当時は一般就労希望だったがステップを踏みながら一般就労を目指す。
 - ・アフターフォローで事業所等を訪問すると、やんちゃだった学校の時と違う表情を見せてくれていることが嬉しい。
 - ・アンケート結果については、〈高1〉〈高2〉〈高3〉と学年が進み、実習等の経験を積むことで、本人と保護者の希望が一致している状況が見て取れる。
 - ・今年度の進路に関する情報と対策について
 - b その他

これまでの提案等についての意見質問

【A 氏】 教室不足について触れられていたが、今後も児童生徒は増える見込みか？

【校 長】 R3からR4にかけて増加している。紫波、矢巾の近隣地区の人口増加傾向にあるため、児童生徒数も増加する見込みで考えている。

【A 氏】 全国的な傾向として、子どもは減少しているが、都市の中心部は増加している現状である。ここは肢体不自由の学校の作りでグラウンドも狭く、寄宿舎を転用しての建物となっている。これから児童生徒数が微増するといっても、学習をする環境整備が大変である。学校では改善できない課題であるので、設置者の協力をぜひお願いしたい。

【A 氏】 タブレット端末は1人1台整備されているのか。活用状況と今後の活用の見込みを教えてもらいたい。

【本校職員】 授業で活用する他、動画、Wifi、アプリ活用している。その他、休み時間に利用することで余暇活動にもなっている。

【本校職員】 活動中の写真を撮影し、学習の振り返りに活用したり、調べ学習にも使用している。

【本校職員】 一人1台持っているので、調べ学習を始めとして、プレゼンテーションをするアプリを利用して発表の時などに活用している。

【A 氏】 児童生徒の実態として、重度重複化、多様化の傾向が強まっているのが課題である。端末を活用しながら、困難を克服するために活用することが重要である。重度の子供たちへの活用をしてもらいたい。

【B 氏】 学校運営協議会について。地域防災の観点の課題があり連携が大切になってくると考えている。地域一体型運営協議会として小学校と連携しているが、具体的な事

例を紹介してほしい。

- 【C 氏】 R3年度から学校と合同避難訓練をスタートしている。訓練を通して、重度の方々の避難など検討している最中である。消防署のアドバイスは、避難場所を増やすことである。
- 【B 氏】 乙部地域は、背後に傾斜地を背負っている危険個所である。防災教育として、実際に地域を歩かせなければと考えている。毎年、田老町に防災教育で行っているが、実際に歩くのとそうでないのでは効果が違う。
- 【F 氏】 高等部の地域との共同活動は、どんどん広げてもらいたい。ふれあいランド内の事業所では、ロボットを活用しているので、コミュニケーションが難しい等、多様な生徒の実習に機械があれば活用してもらいたい。

エ 学校運営協議会（コミュニティスクール）に係る研修会

令和4年度コミュニティ・スクール研修会（盛岡ひがし支援学校）

「国や県が目指す地域学校連携・協働（コミュニティ・スクール）について

岩手県教育委員会事務局学校教育室指導主事

(ア) はじめに

コミュニティ・スクールの考え方として、ひな形やマニュアルのない、文字のない、真っ白の取扱説明書をイメージしてもらいたい。はなから答えがあるものではないので、各校の取組なども今後、参考としてもらいたい。

(イ) 直面する課題と今後の方向

- ・ロボット化が急速に進んでいる。
- ・岩手県は、人口減少傾向にあり、都道府県の中で7番目に大きい減少率。
- ・少子高齢化と家族の形の多様化が顕著。人口減少であるが世帯数が増加している。
- ・学校現場が抱える課題の状況と教職員の働き方改革の必要性が喫緊の課題。質の高い教育の停滞が生じている。

(ウ) 国の動向（CS：学校運営協議会制度の概要）

- ・学校改革の一環として法律が改正された（努力義務規定）当初は、令和4年度には義務化するといわれていたが、現在は努力義務のまま。
- ・CSの仕組みを活用し、地域でどのような子供を育てるかといった目標を共有すること、学校、家庭、地域社会が連携し道德教育の充実を図ることにより、保護者や地域の人々の道德教育に関わる意識が高まることも期待される。また、家庭や地域社会との連携や協働を深めること、高齢者や異年齢の子供など地域における世代を超えた交流の機会を設けることが期待されている。
- ・高等学校では、令和4年5月の現在、西和賀高等学校の他39校が導入済み。特別支援学校は、CS導入の動きは他校種より増加傾向である。
- ・令和3年度は、花巻清風支援学校と気仙光陵支援学校、令和4年度は、盛岡となん支援学校、盛岡峰南高等支援学校、盛岡みたけ支援学校、前沢明峰支援学校、一関清明支援学校、久慈拓陽支援学校がスタートしている。
- ・「学校運営協議会」の法的な役割として、（1）校長が作成する学校運営の基本方針を承認するは必須。（2）学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができるは任意。（3）教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができるは任意である。人事に関しては規程があり、内容としては学校課題について

の話題が多く、学校の魅力化が中心である。

(エ) 特別支援学校の取組例

- ・様々な取組例の紹介
- ・まとめ

地域と学校が連携・協働することにより、双方にメリットが生まれる。

CSについて更に深く知りたいときは、「まなびネットいわて」を検索してほしい。

オ 意見・提言

(ア) 【A氏】

特別支援学校の実態は多様化しており、今後地域とどのようにつながっていくかが重要である。

特別支援学校の「地域」のとらえ方、地域の定義づけが重要であり、学校が地域にどう貢献しながら連携するか検討をしてほしい。

(イ) 【C氏】

特別支援学校は地域に向けてコミュニケーションを広げることが欠けていると思う。コミュニケーションが広がっていけば理解も広がると思う。コミュニティ・スクールを通して、学校を知ってもらえる機会になれば良いと考えている。

(ウ) 【D氏】

防災計画や避難計画、地域の方々とのやりとりを一緒に行っていきたいと考えている。また、福祉現場では、働く環境づくりが大きな課題となっている。虐待防止を重視しながら、職員が安心して働ける環境づくりについて考えていきたい。

(エ) 【E氏】

就労に関わる重要事項として、コミュニケーションが大切だと考えている。地域とコミュニケーションをとれるところから始めていきたいと思っている。

(オ) 【F氏】

3年生が行っている活動について、町内会の老人クラブ等と一緒に活動してもらいたいと考えている。前々市長には、障がいのある方や老人クラブなどに役場の掃除を担ってもらおうよう提言したことがある。難しく考えず、できるところから始めることが大切である。

(カ) 【G氏】

職員の方々は、朝、夕と子どもを連れて歩いたり、色々なことをやっている。とても大切なことをやってくれていて、地域としては感謝しております。

(キ) 校長謝辞

ご意見、提言ありがとうございました。指導主事にも感謝申し上げます。

地域との連携や社会に開かれた学校について、改めて重要と感じました。令和5年度のCSへの移行に向けて、ご意見を参考にさせていただき、具体につなげていきたいと思っております。

カ 閉会のことば